

「キロクアメ」 記録的短時間 大雨情報

記録的短時間大雨情報とは

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したりしたときに、各地の気象台が発表。基準は府県予報区ごとに決めており、その地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを知らせるために発表するもの。

気象庁より抜粋

ちなみに…
北海道釧路地方は80ミリ
名古屋市は100ミリ
沖縄県宮古島市は120ミリ

近年、一時間に100ミリを超える大雨が頻発しています。最近ニュースで耳にする「記録的短時間大雨情報（キロクアメ）」とは、いったいどんなものなのでしょうか？

(※「キロクアメ」という読み方は、気象庁の予報用語としては定義づけされていませんが、読みやすくするために使用しています)

頻発する80ミリ以上の大雨

過去5年に全国で発表されたキロクアメをまとめたデータベースによると、7月の九州北部豪雨水害では、福岡気象台（キロクアメ発表基準：110ミリ）が7月だけで19回も発表しており、そのうちの15回が7月5日（13:30～20:18）に集中していま

す。1年間に全国でキロクアメが発表された回数は、2013年77回、2014年53回、2015年38回、2016年58回でした。昨年9月の運用の見直しで発表回数が増えていることもありますが、今年はずでに10月18日現在で108回発表されています。

“100ミリ”の雨って？

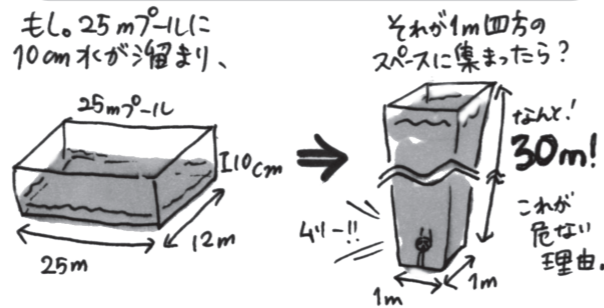
どうしてそれが怖い？

100ミリの降水量というのは、ある時間に降った雨の量が水深10センチまで溜まったという意味。



町や地域で考えてみよう

雨は低いところに集まる

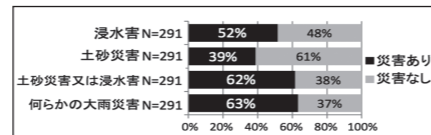


“キロクアメ”と災害の関係

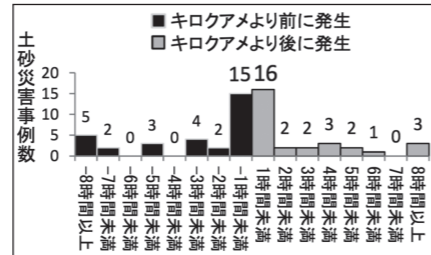
6～8割近くの割合で何らかの災害が起きている

記録的短時間大雨情報（以下キロクアメ）と災害との関係について、名古屋地方気象台（現長野地方気象台）の向井利明氏と静岡大学防災総合センターの牛山素行氏が調査したものがあります。資料では、2010年5月27日から2013年12月31日の調査期間中に全国で発表されたキロクアメ289回、延べ291市町村において、何らかの災害が発生した市町村が63%にのぼりました。キロクアメの対象地域に隣接した市町村の災害の有無も加えると、71%の確率で何らかの災害が発生していることがわかりました。

また、土砂災害発生時刻とキロクアメ発表時刻の時間差を調べると、60事例のうち52%の土砂災害がキロクアメ発表の前1時間に集中していることがわかりました。



キロクアメの対象となった市町村における災害発生率



土砂災害発生時刻とキロクアメ発表時刻との時間差

つまりは、ニュースなどで“100ミリ”という言葉が出たら、何らかの災害が起きてもおかしくないと考えたほうがいい。

※10ミリの雨量でも、降り続けている時は注意が必要。30ミリから山崩れなどが起きやすくなる

ご協力/長野地方気象台 向井利明氏 参考HP・文献/●気象庁 ●平成26年度自然災害科学中部地区研究会集予稿集『記録的短時間大雨情報と災害との関係について』名古屋地方気象台 向井利明 静岡大学防災総合センター 牛山素行 ●CPS-IPプロジェクト記録的短時間大雨情報データベースhttp://agora.ex.ni.ac.jp/cps/weather/rare-rain/ ●NHKクロースアップ現代+

どんなところが危険？



あるある70号参照

いまいる地域の危険度をどうやって知る？

体感で判断する

気象庁のホームページの「雨の強さと降り方」には、人が感じるイメージや、その量でどんな災害が発生するかなどが見やすく整理されています。



気象庁「雨の強さと降り方」



1日時間(20mm)は…
隣の人の声が聞こえない
7月14日に丹羽郡大口町で120ミリを体験した人の証言

雨雲レーダーで予測する

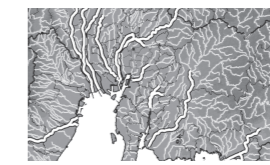
テレビやネット、アプリで見ることのできる雨雲レーダーは、雨の強さや動きによってある程度の危険が予測できます。



赤や紫色はまずヤバイ
自分のいる場所や川に雨雲が
かかり続けると危険

洪水警報の危険度分布で予測する

気象庁が出す、洪水警報を補足する情報。3時間先までの中小河川の洪水害の危険度を5段階で色分け表示しています。自分のいる地域の河川の状態を一目で知ることができます。



地図を拡大すると青い線(河川)が表示される。平常時は青色だが、洪水の危険が高まると色が変化していく。

気象庁「洪水警報の危険度分布」

※洪水の他に土砂災害、浸水害の危険度分布もあり、それぞれの危険度を知ることができます。

避難勧告は即避難!!

自治体の出す避難勧告は本当に危険であるという最終勧告。ラジオ・テレビ・町内放送・ネット・スマホのいずれかで常に情報を得られるようにしておきましょう。



何かしらの情報を
早めに得られる工夫を。

早めの避難を!



記録的短時間大雨情報が発表された場合、すでに猛烈な雨で身動きができないことも。移動することがかえって危険な場合は、より安全な所へ移動するか、少しでも命が助かるように、できる限り上の方で、小さい部屋などに避難しましょう。

平成29年7月 九州豪雨災害(2017.7.5～6)

大分県日田市の災害ボランティアセンターは8月末に閉所しましたが、農地などの支援を継続するために、日田市内外のNPO10団体が協力し、ひちくボランティアセンターを立ち上げました。ひちくとは、熊本や福岡、日田市で使われている肥筑方言に由来し、今回の被災地全体の復興を願って名前がつけられました。重点的に支援を行っている大鶴と小野地区では、水害の影響で住民が集う場がなくなってしまうため、住民同士の交流会の企画や、ストレスを抱えた子どもたちを日田市内のプールに連れていくバスツアーなども行いました。

ひちくボランティアセンター
(毎週金～日曜・祝日)
電話:080-5063-9563
フェイスブックページ:
<https://ja-jp.facebook.com/hivolu/>

台風18号への対応 (2017.9.13～18)

台風18号の影響で、大分県津久見市、佐伯市、臼杵市の3市にボランティアセンターが開設され、18日に大分県社協より津久見市へ資器材の貸出要請が入り、翌19日にRSY、中部土木の企業ボランティア合わせて9名で搬出作業を行いました。また、日田市に発送した資器材の一部を津久見市、佐伯市、臼杵市へ送りました。

台風21号への対応 (2017.10.22～23)

台風21号で被災した三重県伊勢市災害ボランティアセンターに、RSYが大分県津久見市に貸し出していた資器材を送りました。